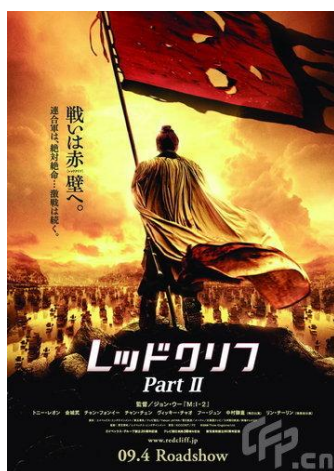


中国各地における「三国文化」を生かした地域活性化策について

北京事務所

三国文化観光資源は、中国において最も影響力を持つ、豊富な文化・観光資源の一つと言えます。1994 年に中国中央テレビ局の大型ドラマ『三国演義』の上映をきっかけに、中国だけでなく東南アジア等でも「三国ブーム」が現われ、三国遺跡巡りの観光も人気になっています。ドラマのロケ地である無錫の太湖「三国城」も人気スポットとなり、毎年入場料だけでも人民元 1 億元（約 12.8 億円）を超えているとのこと。各地域はそれぞれ所有する三国遺跡等を利用し、地元の観光産業や経済発展に力を入れています。その代表地として湖北省、河南省、四川省等が挙げられます。



無錫太湖の「三国城」ロケ地

映画「赤壁」のポスター（写真は「新浪娛樂」より）

<http://ent.sina.com.cn/d/2008-12-12/161>

[32293584.shtml](http://ent.sina.com.cn/d/2008-12-12/16132293584.shtml)

それではまず、湖北省の三国文化観光資源を紹介します。湖北省は観光地開発・造成の歴史が長く、省内には既に下記の四つの「三国文化観光エリア」が形成されています。

- ①武漢エリア。「黄鶴楼」、「東湖劉備郊天台」、「卓刀泉」、「鸚鵡洲」、「赤壁」、「岳陽楼」、「黄蓋湖」、「魯肅の墓」等の遺跡があります。
- ②荊州エリア。「荊州古城」、「関帝廟」、「春秋閣」、「馬跑泉」、「三国公園」等からなります。
- ③宜昌エリア。「夷陵の古戦場」、「張飛雷鼓台」、「当陽長坂坡」、「長坂橋」、「麦城遺跡」、「玉泉山」、「玉泉寺」、「関陵」、「遠安回馬坡」、「宜都二陸名城」等があります。
- ④襄陽エリア。「襄陽古城」、「馬躍檀溪処」、「隆中三顧堂」、「武侯祠」、「騰龍閣」、「仲宣楼」、「龐靖侯祠」、「南漳水鏡莊」等が代表的な観光地となっています。

この中で、最近、観光施策の動きが目立っている襄陽エリアを例により詳しく紹介したいと思います。この地域は、「孔明菜」という野菜があり、三国ゆかりの地です。2010年には、襄陽市は、60年間も使用してきた市の名称を「襄樊市」から「襄陽市」に戻し、三国文化を重点にした観光業を発展させることを唱えました。そして、2012年、襄陽市

三国歴史文化学会を設立しました。またハードの面においても、それぞれ 22 億元(約 282 億円)と 30 億元(約 384 億円)を投資し、「漢城」と「唐城」という漢と唐の時代劇のロケ地を着工しています。そのほか、最近では「襄陽宴」と言う三国文化要素を取り入れた料理も企画しているとのことです。

中国では、「三国城」と冠するロケ地や公園は 10 カ所以上あります。湖北省でも 3.1 億元(約 38 億円)を投入して、赤壁市で「三国城」を作り上げました。また湖北省では、海外向けに主に下記の三つの地域を対象に観光 PR を行っています。

- ①台湾。武漢—台北間直行便を利用して、台湾の観光客を誘致。
- ②日本。映画『赤壁』(日本でのタイトルは『レッド・クリフ』)の日本上映や、「大三国志展」の開催を通じて、日本で湖北の三国文化及び世界遺産観光を PR。
- ③東南アジア。シンガポール国際観光展に出展して、東南アジアでの PR を強化。

次は河南省についてですが、河南省は三国文化において重要な地位を占めています。許昌を中心に、北に長葛、中牟、原陽、滎陽、洛陽があり、南は南陽と繋がっています。

許昌古城には、「毓秀台」、「春秋楼」、「関羽辞曹帰劉碑」、「灞陵橋」、「張飛廟」、「射鹿台」、臨潁の「受禅台」、「三絶碑」、「漢献帝廟」等の遺跡があります。中牟の「官渡の古戦場」、洛陽の「関林」、南陽の「臥竜岡」、「武侯祠」等も有名です。2009 年に、安陽の曹操墓地が発掘されたことを受け、許昌市は「曹魏古都巡り」コースを打ち出し、6 億元(約 75 億円)を投資して「許昌三国文化苑」を造成しました。

また、南陽市は「諸葛孔明祭り」を何回も挙行しているほかに、9 億元(約 112.5 億円)を投資して諸葛孔明が住んでいた臥竜岡を整備し、『南都賦』に基づいて観光施設を建設しています。



許昌の「三国文化ウィーク」



江蘇省・鎮江の「甘露寺」

最後に筆者の故郷である四川省を紹介します。四川省は中国において、三国文化観光資源が最も豊富な所です。成都の武侯祠（成都にある劉備と諸葛孔明がともに祭られている祠）をはじめ、「万里橋」、「九里堤」、「弥牟八陣図遺跡」、「都江堰」、「大邑子龍廟」など数多くの三国絡みの観光地があり、知名度が抜群であることに加え、交通が便利で観光客が最も多いため、経済効果が最大のエリアとなっています。



成都の「武侯祠」

成都の武侯祠は多くの園林建築群と様々な文化施設からなっており、博物館はそのわずかな一部に過ぎず、博物館以外は市民レジャー、ショッピングモールになっています。知名度が非常に高いため、成都に行く観光客のほとんどが武侯祠を訪れています。

成都市武侯区は、文化産業を発展させるために、「武侯祠」、「錦里」、「南郊公園」、「漿洗街」、「耍都」等の観光地を統合して、「三国蜀漢の町」を造成する方針を明らかにしています。そして、今後、観光業、アニメゲーム産業、飲食業、デジタルメディア、デザイン、演芸娯楽等特色を持つ産業を育成する政策も立てており、「三国文化祭り」を企画しています。2016年、同区の文化産業増加価値は130億元（約1,625億円）にもものぼると試算されています。

以上三国文化観光の代表的な地域を紹介しましたが、そのほか規模が若干小さくはありますが、高い知名度を有する幾つかの観光地にもふれてみたいと思います。

例えば、江蘇省鎮江市には、北固山があり、山の上に三国遺跡が数多く残っており、「鉄瓮城」という遺跡もあります。そして、ここは孫氏一族の古里であり、赤壁の戦の際、孫・劉連合軍が大本營を設置した所でもあります。「甘露寺」、「祭江亭」等も有名であり、劉備がここで嫁を迎えた伝説が広く伝えられています。同市には「鎮江市三国演義学会」と言う研究会もあり、2010年に、第20回「三国演義」学術セミナーがここで開催されました。

また、華北地方にある河北省涿州市は、三国時代劉備、関羽、張飛が「桃園三結義」を行った地であり、観光地整備や書籍出版をしたり、三国歴史研究機関を設立したりして、「文化歴史名城」作りに力を入れています。「三義宮」という遺跡があり、日本の「三国志学会」もここで設立式典を行ったといます。CCTV（中国中央テレビ局）の三国志ドラマのロケ地としても整備されています。同市では毎年旧暦3月23日、「楼桑春社文化縁日」を開催しており、縁日には屋台、露店市、戯曲、芸能のパフォーマンス等が行われます。2006年には、涿州市は中国民間文芸家協会によって、「中国三国文化の古里」の称号を与えられました。「中国三国文化研究センター」もここに設立されています。

上記のように、各地に三国遺跡が数多く残されていますが、地域によって開発レベルにギャップがあることも現実です。例えば、内陸部の甘肅省天水市は、諸葛孔明「六出祁山」、

「失街亭」のゆかりの地であり、遺跡も残っていますが、未だに未開発のままとなっています。

中国は三国文化の発祥地であり、三国遺跡を数多く有しているため、経済発展とともに文化や観光分野における市場ポテンシャルが大きいと見込まれています。一方、日本には三国文化が深く浸透しており、三国志をテーマにしたアニメなどコンテンツ産業が進んでいます。この三国文化を軸にして、今後益々両国は観光、文化、コンテンツ産業等の分野における更なる協力が期待できると思います。



河北省涿州の「楼桑春社文化縁日」

(高 調査員)

